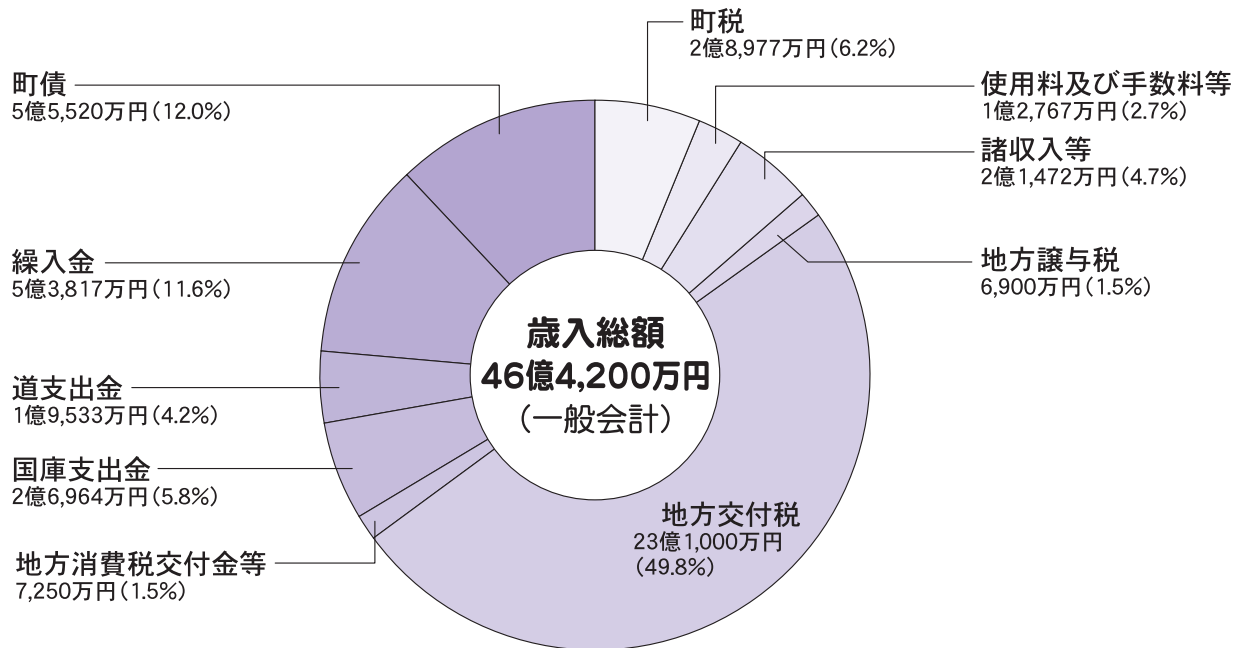


平成30年度 まちのお金の使いみち

本年度の予算の概要と事業についてお知らせします。



持続可能な財政運営を基本に

現在、本町の財政状況は、財政の健全化を示す「実質公債費比率（H28～6.7%）」や「将来負担比率（H28～なし）」から判断すると、健全性が維持されていると言えます。

しかし、人口減少や地方における景気の落ち込みにより、近年は町税が減少傾向であり、国の財政規律維持や制度改正に伴い地方交付税の圧縮が見込まれ、自主財源の乏しい本町にとっては、財源確保は大変厳しい状況にあります。

一方で、住民ニーズの多様化や高齢化に伴う物件費や扶助費、公共施設の老朽化による維持管理経費などは増加傾向にあります。投資的経費においても、簡易水道再編推進事業や橋梁長寿命化事業など町民生活に直結したインフラ整備の改修が必要となっています。

このため、本町の厳しい財政事情を認識した上で、長期的な視点による持続可能な財政運営を基本に据え、歳入予算をベースに徹底した経

常経費の歳出削減や優先度・緊急度の高い事業の選択と重点化を念頭に予算編成に努めました。

平成30年度は、「第5次置戸町総合計画」後期計画、並びに「まち・ひと・しごと創生総合戦略」5ヶ年計画の4年目を迎えます。総合計画の将来像「自然を愛し、人にやさしいまち」の実現のため、町民の誰もが安心・安全に暮らせるまちづくりに努めます。

一般会計は46億4,200万円を計上し、前年度当初予算と比較し、3億400万円、7.0%増の予算となりました。特別会計の中で、簡易水道特別会計は、簡易水道の再編推進事業が8年計画の7年目を迎え、配水管布設（北光・愛の沢、中里・安住）、加圧ポンプ設備（勝山）、各戸給水管布設工事（安住・中里）などの整備を実施します。その他の特別会計では、ほぼ前年並みになり、一般会計と6特別会計を合わせた新年度予算の総額は、前年度当初予算比3.0%増の61億2,250万円となりました。